電気工事実技試験のコツ処

1,支給された電線の端末に部品を接続した後に電線を切断する。必ず電線が余るので、誤配線をやり直すことが出来る。

2,短いケーブルを処理する場合、処理を行なわない端末側を曲げておくと、IV が抜けない。

3,複線図を紙上に描かない。電線に部品を取り付ける場合、電源から最も端末のジョイントボックスで接続する部品から電線に取り付ける。取付作業を行いながらジョイントをイメージする。

4,ジョイントボックス及び部品を取り付ける場合、IV の部分の仕上がり長さは 5cm 以上とする。

5,ジョイントボックスに於ける接続順序は、

イ) スイッチの二次側(色違いの電線の接続の場合が多い)

ロ) 接地側(白色絶縁電線)

ハ) 非接地側

とすると、誤接続を少なくすることができる。

6,圧着スリーブの刻印が見えるように揃えて置く。

7,ジョイントボックスに於ける圧着スリーブ接続の場合の芯線の長さは

イ) 二本を接続する場合、2cm

ロ) 三本を接続する場合、3cm

ハ) 四本を接続する場合、4cm

とすると、比較的楽に接続ができる。

8,電源・他の負荷並びに施工省略の指示のある端末を指定通りの長さに切断しておく。余った長さのまま放置しておかないこと。

9,取付枠のカシメは向かって右側(右利きの人が多い為?)で、取り付け部品は刻字が読める方向に取り付けると正常の方向となる。

10,渡り線は長い距離の穴を利用する方が大きな円状になるので、楽に配線ができる。

11,同時・常時点灯等の渡り線は黒色若しくは赤色のどちらでもできるように練習を重ねておくこと。

12,三路スイッチの 1 番端子と 3 番端子の配線間は 1-3,3-1 でもよい。

13,文字の優先順位と色の優先順位を決めておくこと。

例えば、イ、ロ、ハ・・・黒、赤、白

14,ペンチの歯は目視できる方向で使用するのが原則である。

15,電工ナイフでの断ムキは必ず芯線に傷が入るので避けること。断ムキはストリッパーでの処理を認めていることである。

16,マイナスドライバーによるイージー端子から電線を外す場合、ドライバー先を脱着穴に差し込んで、ドライバーのグリップを作業者の腹部に押し当てて行うと、ドライバーを脱着穴に真っ直ぐに差し込むことができるので配線器具を破損し難くなる。

17, 出来上がり寸法の誤差は±50%であるので、寸法はその都度メジャーによる計測をしない。例えば電工ナイフの幅は 2cm、にぎりこぶしは 10cm、手を広げて親指からタカタカ指までは 20cm である。

18,圧着スリープを圧着する場合、絶縁体のトップを揃えて、絶縁体の無くなった処に親指の爪を立ててそこまでスリーブを差し込んで圧着を行うと、絶縁体からスリーブの底部まで爪の厚さの 2mm ぐらいは芯線が目視できる。

19,端子台への電線接続に於いて、1 本の場合はネジの向かって左側に取り付けると、振動等でも抜け難い。出来上がりの確認の際、必ずネジの閉め増しを行うこと。

20,ラス網貫通部分の VE を固定するバインド線のケーブルへの巻数は必ず二回とすること。バインド線の端末は VE 側に曲げて VE を固定しておく。また、配線器具を接続したケーブルの他端を接続する前にこの作業

を完了さしておくこと。
21,各ボックス内の IV の長さは 15cm までとすること。5cm 程では配線器具に接続できない場合がある。
22,取付枠に取り付ける配線器具は指示の順とする。ただし、配線の順序は不問である。
23,IV を管に通す場合、IV を二つ折りにして曲げた方から管に挿入する。管から出た先端から 1cm ぐらいの処から切断して、電線の曲がった部分を破棄して直線状態の処を処理する。
24,金属管工事の場合、金属管をアウトレットボックスに取り付けた後、ボンド線を取り付けネジから最も離れた穴からアウトレットボックス内部に引き入れてネジ停めする。
25,ネジなし金属管の接続用ネジは必ずネジ頭をねじ切っておくこと。